

第212回（令和5年11月26日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿記入についての出題〉

帳簿および帳簿記入に関する基礎的な知識を文章の正誤判断で問うている。

1. 取引の証拠となる領収書やそれを記録した帳簿などの保管について確認している。
2. 総勘定元帳の現金勘定を締め切る際の「✓」（チェックマーク）について確認している。
3. 複式簿記およびその帳簿間の関係について確認している。
4. 帳簿の金額欄における合計線について確認している。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. は、中央商店連合会の会員から会費を集金した取引である。受け取った現金（資産）とその受け取る原因として発生した会費収入（収益）の記帳を問うている。
2. は、中央商店連合会の事務所の家賃を支払った取引である。発生した支払家賃（費用）を現金（資産）で支払った際の記帳を問うている。
3. は、中央商店連合会が保管していた現金を銀行預金（普通預金）に入金した取引である。手もとにある現金（資産）が減少し、普通預金（資産）が増加した際の記帳を問うている。
4. は、商品売買業（宝飾品売買業）を開業した取引ある。企業にとって、出資された現金（資産）が増加し、その出資額である資本金（資本）が増加する際の記帳を問うている。
5. は、商品売買業者（宝飾品売買業）が商品（ブローチ）を購入し、代金の一部を現金で支払い、残りを後払いとした取引である。購入した商品（資産）が増加し、同時に現金（資産）による支払いと掛け取引により買掛金（負債）が増加した際の記帳を問うている。
6. は、商品売買業者（宝飾品売買業）が商品（ブローチ）を販売し、代金を後で回収することとした取引である。販売により商品（資産）が減少し、同時に掛け取引による売掛金（資産）が増加し、また原価と売価の差額である商品販売益（収益）が発生した際の記帳を問うている。
7. 商品売買業者（宝飾品販売業）の銀行預金（普通預金）口座から電気料金が支払われた（引き落とされた）取引である。水道光熱費（費用）が発生し、その支払いによって普通預金（資産）が減少した際の記帳を問うている。

8. 商品売買業者（宝飾品売買業）が前月に購入した商品の掛け代金を支払った取引である。買掛金（負債）が減少し、同時に現金（資産）が減少した際の記帳を問うている。

第3問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

帳簿の基本的な形は、日々の取引を記録する日記帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿（元帳）の2つである。本問では、日記帳としての仕訳帳に記入されている取引を、勘定科目がまとめられている元帳へ転記するという手続きを問うている。適切な勘定科目の勘定口座の借方または貸方に、相手勘定科目、丁数、金額を適切に記入できるかを試している。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、指定された解答欄に適切な用語または数字を記入することに注意する。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

会計期間の収支計算を示すことによって会計報告する場合には、前期繰越金から出発し、期中の活動による変動を経て、次期繰越金に至る過程を示す会計報告書を作成する。

本問では、一会計期間の会計記録をまとめた試算表からバスケットボールサークルの会計報告書（報告式）を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、支出項目の配列は試算表の配列によることに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期末の会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。

本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から損益計算書と貸借対照表を作成できるかを問うている。貸借対照表と損益計算書に計上する勘定科目は、解答用紙にあらかじめ示されているので、元帳残高を適切に記入し、貸借対照表と損益計算書それぞれにおいて当期純利益が一致する関係を確認できるかを問うている。